

## はじめての漢方診療 症例演習

三瀧忠道 監修

＜書評者＞ 宇宿功市郎（熊本大学病院医療情報経営企画部長）

本書は、三瀧先生がこれまでに上梓された“はじめての漢方診療”シリーズの“十五話”“ノート”に続く第3弾としての役割を果たすもので、かつこれまでも求められていたものであり、三瀧先生グループの経験を余すところなく読者に伝えることをめざしたものです。

内容は、日常診療においてすぐにでも参考にしたい場合、ある程度漢方診療を行ってさらなる向上をめざす場合の双方の読者にとっても有用なものになっており、診察室や自己学習の場面など多方面での活用が期待できるものになっています。

また、三瀧先生の工夫が随所に

みられるのも特筆すべき点です。特に、症例をまず読者自身が1人で検討し、その後に病態、処方を考えるという流れが全体を通して採られていることは本書の特徴といえます。処方を考え、決定するまでのプロセスは症例ごとに丁寧に記載されており、症例ごとのポイントの解説、鑑別処方、症候の考え方の記述は、具体的で読者の頭の整理には十分といえるものになっています。前2著書の参考ページも掲載しており、併読することで理解が深まります。加えて、基本的学習項目をあらかじめ確認するために、本書の冒頭部分に「総論」として、診療の実際について簡単明瞭ながらポイントを突いた

まとめが挙げてあり、知識の整理にも役立つものになっています。表紙カバーの裏側には「考えるヒント」を掲げ、漢方診療の流れを繰り返し読者自身がたどることで、知識の習得を円滑に進められるように工夫もされていて、いたれりつくせりのものとなっています。すなわち、読者が本書を日々使用することで、漢方診療の要諦を簡単に身につけることができる構成となっているわけです。ぜひとも本書を利用して漢方診療の流れに親しみつつ、実地の診療に生かしてもらえればと思っています。

●B5 頁280 2011年  
定価5,775円  
(本体5,500円＋税5%)  
[ISBN978-4-260-01189-1]  
医学書院刊